令和 8 年 11 月

令和 7 年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園　名	社会福祉法人ねりま共育ちの会 どんぐり山保育園
所在地	東京都練馬区春日町 4-1-13

１．活動のテーマ

【テーマ】

畑から食卓へ ～育てる・知る・味わう～／　5 歳「もり組」

【実施時期】

2025 年 4 月 – 10 月

【テーマの設定理由】

通年を通して、畑での作物の栽培や収穫、調理保育などを通じて、子どもたちが食材に触れ、育ちや変化に関心を持ちながら、食への興味を広げていく。

２．活動スケジュール

午前中から午後にかけて活動

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・栽培する素材　：ひまわり（大・ミニ)、人参、とうもろこしの種
・畑づくりの道具：スコップ、じょうろ
・栽培環境　　：スコップで土を掘り、畝を作った畑。種の大きさや形を観察しながら、子どもたちが自分で種を植えられる環境
・看板作りの素材：看板用の木材
・看板作りの道具：のこぎり
・活動環境　　：グループごとに看板を作り、一人ずつのこぎりを使って木材を切ることができる環境
・焼き芋会の準備素材：サツマイモ
・焼き芋会の準備環境：子どもたちがサツマイモを手に取り、大きさや形を比べながら洗える環境

４．探究活動の実績

【活動の内容】

春・夏野菜の栽培に向けて、前日にスコップで土を掘り、畝を作るなど畑の準備を行っ

た。翌日には、以前子どもたちと買いに行ったひまわり（大・ミニ)、人参、とうもろこしの種を植えた。風が強く土が舞いやすい状況だったため、じょうろで土を湿らせながら作業を進めた。種を入れる場所を作り、一つずつ丁寧に植えていく中で、「人参の種小さいね」「トウモロコシはおっきいー！」と、種の形や大きさの違いに気づき、よく観察する姿が見られた。種を植えた後は、風で飛ばされないよう土をかぶせ、水やりを行った。畑を使った初めての栽培活動として、これからの成長を楽しみにしながら取り組んだ。
また、種を植えた後、子どもたちから「何もないとどこに種があるか分からないね」「小さい子に踏まれちゃうかも」「看板を付けた方がいいね」といった声が上がり、畑に看板を作ることになった。グループごとに木材を使って看板作りを始め、のこぎりの使い方について説明を聞いた後、一人ずつ木材を切ることに挑戦した。普段あまり使うことのない道具に興味を示しながら、木材の長さや硬さに苦戦する場面もあったが、「腕が疲れてきた～」「筋肉固くなってきたかも！」と話しながら、最後まで取り組んだ。
さらに、焼き芋会に向けてサツマイモの下洗いも行った。芋を手に取り、「大きいね～」「ほっそ！」と形や大きさの違いを友だちと話しながら、楽しそうに洗っていた。栽培する環境を自分たちで整えることや、作物の種を観察すること、看板作りや収穫後の準備などを通して、植物を育てることへの関心を広げ、畑での活動に主体的に関わる姿が見られた。

【活動の様子】



【振り返り】

園庭の畑に無造作に生えている蕗を収穫し調理、畑の土づくりから、畑活動のスタートとなった。子どもたちと話し合い、苗や種を植え、仲間とともに栽培・収穫・調理・実食を楽しむことができた。また、子どもの声から看板づくりをするなど、発展していくことも多く見られた。成功体験ばかりではなく、夏野菜のトウモロコシは間引きした後、収穫目前で、何者かに食べられてしまうなんてこともあった。びっくりしたりすることも沢山あった。給食の手伝いも積極的に行い、『ありがとう』『おいしかったよ』と大人に声を掛けられ、『また、やってあげるね』『なんかほかにないの？』と張り切る姿がとても誇らしげであった。調理器具を使っての調理も家庭での様子を聞きながら無理のない形で取り入れていった。大きなけがもなく、食材を調理する経験も計画的に行うことができたと思う。どの経験も、子ども達のやる気や自信となった。そして楽しく行われたことが何よりだった。